

セミナー概要 2007年12月7日

「FAO 食料見通し Food Outlook 2007 年
11月版 ―農産物の高価格と乱高下―」

(国連食糧農業機関 (FAO) 経済社会局貿易市場
部品目別市場・政策分析および見通し課 上席エ
コノミスト)

アブドレサ・アバシアン

FAO の食料見通しは、この先1年程度の
食料の国際需給を短期的に予測することが
目的である。

2006/2007 穀物年度初頭 (2006 年9月
頃) から、穀物や油糧種子、乳製品の国際
価格が急激に上昇している。この原因は、
短期的なものである。具体的にいえば、豪
州の干ばつによる大幅な小麦の減産など、
2005 年度および 2006 年度と2年連続して
穀物の生産量が対前年度で減少した結果、
在庫が大幅に減少し、穀物の先高感が形成
されたことによる。多分、投機的な要因も
大きいかもしれない。ただし、2007 年度は、
今のところ、穀物等の生産量は平年並みに
回復するだろうと見込んでいる。

まず、小麦については、2007/2008 年度
には生産量は対前年度比 1.1%増加し、消費
量は対前年度比 0.4%減少すると見込まれる。
在庫は引き続き減少し、対前年比 10.4%
と大幅に減少するとみられる。この結果、
小麦の国際価格には先高感が形成され、国
際価格も 2007 年夏頃から 300 ドル/トン
を上回る高水準が続いている。

次に、トウモロコシについては、
2007/2008 年度には生産量は対前年度比
9.4%増加し、消費量は対前年度比 4.1%増
加すると見込まれる。生産量が消費量を上
回る増加を示すことにより、在庫量が回復
し、対前年度比 9.1%増加するとみられる。
アメリカ、アルゼンチンなどの主要輸出国
は、対前年度比で輸出を増加させると見込

まれる。トウモロコシの国際価格は、2006
年夏頃から大幅に増加し、170 ドル/トン
をうかがう水準で推移している。

市場関係者は、大豆の国際価格をトウモ
ロコシの国際価格で除した割合は、2.0 を
目途に、大豆価格の高低を判断しているが、
大豆の国際価格の上昇により、2007 年6月
頃からこの割合は 2.0 を超えて推移してお
り、大豆価格の割高感も強い。

米国のバイオエタノールの生産量は需要
を上回る速度で急激に増加した結果、エタ
ノールの価格は 2007 年6月以来下落傾向
を示している。

FAO の分析作業の一貫として、穀物の価
格が上昇した原因を、競合する他の穀物の
価格の上昇、在庫の減少、需要の増加、為
替レートの変動、石油価格の上昇などに要
因分解したところ、小麦については、価格
上昇の 35%が在庫の減少により、また 27%
がトウモロコシ価格の上昇により説明でき
ることが計測された。一方、トウモロコシ
については、価格上昇の 44%が小麦価格の
上昇により、また 25%が在庫の減少により
説明できることが計測された。上記の2品
目のいずれの場合も、為替レートの変動お
よび石油価格の上昇の果たす役割は、競合
品価格の上昇および在庫の減少より相対的
に小さい。

バイオ燃料と食料の競合については、原
油価格の上昇により、各種の農産物を原料
としたバイオ燃料の競争力が強まり、それ
らに対する需要が増加するため、バイオ燃
料原料用農産物の価格上昇が生じている。
しかし、ある程度以上これら原料農産物の
価格が上がれば、もはやバイオ燃料原料用
としての魅力が無くなるため、食品との競
合も徐々に減少していくとみられる。

(文責：上林篤幸)